

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0193600087		
法人名	株式会社 ほほえみ		
事業所名	グループホームほほえみ 1階		
所在地	〒059-1304 苫小牧市北栄町4丁目13番3号		
自己評価作成日	令和4年6月23日	評価結果市町村受理日	令和4年8月3日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kan=true&amp;JigyosyoCd=0193600087-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kan=true&amp;JigyosyoCd=0193600087-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	令和4年7月8日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

明るく家庭的な雰囲気を大切にし、入居者様やご家族様が安心して過ごせるような家作りを目指しています。スタッフは入居者様と、共に喜んだり悲しんだりホームが一つの家となるような関係作りを努めています。また、協力医療機関や訪問看護ステーションとの連携により、日々の健康管理や看取り介護にも積極的に取り組んでいます。近隣の幼稚園や小学校との交流や地域行事への参加などを通して、地域との繋がりを大切にし、入居者様やご家族様に安心・信頼して頂ける家づくりをしていきたいと思っております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「グループホームほほえみ」は、バス停から徒歩で10分ほどの静かな住宅地に立地している2階建て2ユニットのグループホームである。近隣には幼稚園や公園、商業施設もあり生活の利便性が高い事業所である。居間や食堂などの共用空間と居室スペースが分かれた開放感のある造りで、新型コロナウイルス感染症対策として食卓テーブルやソファなどの配置を工夫しながらも、家庭的な雰囲気を感じながらゆっくり寛げるように環境を整備している。施設長と管理者を中心に、全職員で家族と情報共有しながら利用者一人ひとりに応じた細やかな対応を行っている。アセスメントの面でも利用者の現状を具体的に伝えながら家族の意向を聞き取り、介護計画に反映させている。感染症流行により地域交流は難しくなっているが、以前はお祭りなどの地域行事に参加したり、幼稚園の運動会見学やお泊り会への差し入れなど近隣住民や子供たちとの交流を活発に行っている。市役所とは常に電話で情報交換しながら連携を深め、市の依頼を受けて小学生対象の認知症サポーター養成講座の講師も務めている。身体拘束委員会は毎回全職員で事例検討を行い、日々拘束のない適切な支援に努めている。家族の意向に沿って看取りも行うなど、利用者と家族が安心できるような家庭的で温かなケアに熱心に取り組んでいる事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほほ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほほ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほほ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほほ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほほ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほほ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほほ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほほ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほほ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほほ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほほ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	基本理念・ケア理念をホール内、玄関に掲げ日々目に付くようにし、理念を共有しながら実践に繋げている。	地域密着型サービスの意義を踏まえた基本理念を基に、職員と共に事業所独自のケア理念を作成している。職員採用時に説明し、困難ケースやケアに迷った時に理念に立ち返り対応を検討している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	行事等でボランティアや近隣幼稚園との交流を図っていたが、現在はコロナの影響で控えている。	感染症流行前は幼稚園の運動会を見学したり、事業所の行事に合わせて歌や楽器演奏などのボランティアが訪れていた。現在は登下校時の子供たちと挨拶を交わす程度になっている。苫小牧市の「介護・医療イベント」の写真展に参加している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近隣小学校での、認知症サポーター養成講座に関わっていたが、コロナの影響で控えていた。今年は10月以降に予定をしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナで外部からの立ち入りを禁止していたので、報告や情報交換が、不十分であると思う。今後は、話し合いを行いサービス向上に活かしていきたい。	感染症流行のため2か月ごとに書面会議を開催し、事業所の状況を伝えている。家族には、毎月の手紙に議事録の内容を記入して報告している。今後は市役所、地域包括支援センター職員の参加を得ての会議を予定している。	テーマを設定したり役立つ情報資料などを議事録に添付し、参加できない家族や構成メンバーからの意見や質問なども会議に活かすよう期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	必要に応じて、情報提供・相談等を行いながら、協力関係を築いている。	介護保険の更新手続きで市役所を訪問したり、分からないことがあれば電話で確認している。生活支援室と生活保護受給者に関する情報を交換している。市役所の依頼を受けて、小学生対象の認知症サポーター養成講座の講師を務めている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日々の介護を通し、申し送り時やミーティングの場などで意見交換や話し合いを重ね、身体拘束について正しく理解できる様取り組んでいる。	禁止の対象となる具体的な行為を記載したマニュアルを整備し、全職員で3か月ごとに身体拘束に関する委員会と勉強会を実施している。勉強会の資料を分かりやすく添付するとともに、禁止行為11項目を見やすい場所に掲示して定期的に職員間で確認する予定である。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	スタッフ間の情報を共有しながら、1人ひとりのケアを確認し、虐待が見過ごされることがない様注意を払っている。		

グループホームほほえみ

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会等の参加機会も減り、学ぶ機会も持っていない。今後学ぶ機会を設けて活用できるようにしていきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時、十分な説明を行い入居者様やご家族様の、疑問や不安な点を解決し、理解や納得を得ている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者様やご家族様とのコミュニケーションを重視し、意見や要望を出しやすい環境作りに努めている。出された意見・要望は、ホーム内で共有し運営に反映指せるよう取り組んでいる。	電話や面会時に利用者の様子を詳細に伝えて意見や要望を聞き取り、家族とのやり取りを「面会記録」に記入している。毎月個別の手紙を家族に送り、3か月ごとに「ほほえみ通信」も郵送している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年1回個別面談の場を設け、スタッフの意見・提案を聞いている。それ以外でも、随時意見交換を行い、十分な話し合いの場を設け、運営に反映させている。	毎月のユニット会議や普段のケアの中で職員の意見や提案を聞き取っている。椅子の高さ調節や食事形態、排泄用品の種類など具体的なことで意見交換している。年1回、施設長と個別面談を実施している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の努力や実績、勤務状況を把握し待遇改善や職場環境の整備に努めている。向上心がもてる様、資格取得の為の休暇や手当等の制度を設けている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	コロナの為、外部研修の参加はなかなかできないが、ミーティングや申し送り時の時間を活用し、職員を育てる取組みをしている。資格取得の為の研修については参加しやすい環境作りを行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との研修機会もなくなっているが、管理者を通し情報交換をしながら、サービスの質の向上に繋がる取組みをしている。		

グループホームほほえみ

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に、本人・ご家族様と面談を行い、現状困っている事や不安に思う事に耳を傾け、本人が安心できる関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様の困っている事や不安に思っている事に、耳を傾け、情報の共有しながら不安の解消、要望に近づく様な関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居時、本人・ご家族の要望を聞き、短期間の計画書を作成し、必要なサービスの見極めに努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	互いに同じ立場という思いで、暮らしを共にする家族という関係を築いている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日々の入居者様の状態を把握し、ご家族様と情報を共有することで、共に支えるという関係を築いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人からの、電話や手紙の取次ぎはしているが、面会はコロナの関係で控えている。	仕事関係や近所に住んでいた方から電話や手紙が届く利用者もあり、職員は返信ハガキの投函を支援している。感染症流行のため外出機会は少ないが、職員と一緒に自宅を見に行ったりドライブで桜を見に出かけている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様の性格や特徴を把握し、入居者様同士の関係を見極めながら、個々が孤立しないよう支援に努めている。		



グループホームほほえみ

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も、数名のご家族様との関係が続いている。また、相談ケースが持ち込まれる事もあり、必要に応じて相談や支援に努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者様の希望や意向を把握できる様、コミュニケーションを大切に、スタッフ間の情報共有に努めている。困難な場合は、本人本位に検討するよう努めている。	利用開始時のフェイスシートに趣味や嗜好を記入しているが、変化があれば「生活の様子」に記録している。会話や表情、動きなどから思いや意向をくみ取り、アセスメントシートや入居者情報要約表に記入している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に、ご家族様や担当ケアマネから情報提供をしてもらい、まとめた情報をスタッフ間で共有し、サービス利用の経過等の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護記録やコミュニケーションを通し、個々の生活リズムや身体状態の把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人やご家族様の意向を聞き、モニタリングを行い、それぞれの意見を反映しながら、現状に沿った介護計画を作成している。	計画作成担当者を中心に全職員で毎月モニタリングを行い、利用者の現状を具体的に家族に伝えて意向を聞き取り3か月ごとに介護計画を作成している。介護計画を意識しながら日々の記録を記入している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を個別に記録し、情報の共有をし、意見を出し合いながら介護計画の見直しをしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人やご家族様の、その時々ニーズに合わせた柔軟な対応ができるよう、十分な話し合いを行いサービスに取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナの為、地域行事も減り参加できていない		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の往診や必要に応じて外来受診をおこなっている。緊急時の連絡体制を整え、適切な医療が受けられるよう支援している。	利用者に応じて、協力医療機関の往診を月1~2回受けている。専門医の受診は事業所に対応し、主治医と連携して適切な医療支援を行っている。受診状況は個別に「受診記録」に記入している。	

グループホームほほえみ

自己評価	外部評価	項目	外部評価(事業所全体)		
			自己評価(1階)	実施状況	実施状況
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションとの契約により、24時間連絡可能な体制となっている。また、週1回の定期訪問で情報交換・情報の共有をし、適切な看護が受けられる様、支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入居者様の入院時には、安心して治療が受けられる様また、早期に退院が出来る様、病院関係者と情報交換情報の共有、相談等しやすい関係作りを行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に、看取り介護についての説明を行っている。実際に看取り介護の状態になった時は改めて、同意書を交わし、かかりつけ医や訪問看護ステーション、ご家族様と連携しスタッフ全員で看取り介護に取り組んでいる。	利用開始時に重度化と看取りに関する指針を説明し、看取りを行う場合は再度家族の意向を確認して同意書を作成している。看取りの勉強会を実施し、看取り後に振り返りを行っている。昨年看取りを実施している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生に備え、日々話し合い、確認を行っている。スタッフ全員が、対応できるよう実践力が身につくよう努めている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回昼間・夜間の避難訓練を行い、避難方法等の確認をおこなっている。災害時に備えて、備蓄品の保管管理をしている。災害時の訓練は今後の課題である。	防災設備業者の協力を得て、昼夜の火災を想定した避難訓練を実施している。近年、火災以外の災害時対応について話し合っていない。感染症流行により、職員の救命講習の受講も進んでいない。	火災以外の災害時の対応について話し合った記録をマニュアルなどに綴り、定期的に確認するよう期待したい。また、感染症の収束状況を見ながら職員の救命講習の受講を進めるよう期待したい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々に合わせた声かけや、声の大きさ・タイミング等に注意し、丁寧な対応を心がけている。	個人記録は目隠しの付いた棚に保管している。申し送り等はイニシャルや部屋番号を使用し、プライバシーに配慮している。声かけについて日々指導を行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の日々の様子を注意深く観察し、本人が思いや希望を表せ、自己決定できるよう各々に合わせた働きかけをしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の希望に添った支援が出来るよう、1人ひとりのペースを大切にしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的訪問理容を利用し、本人の希望に合わせてカットしてもらう。		

グループホームほほえみ

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者様の好みに合わせて、出前やお弁当を取るなど食事を楽しむものになる様支援している。スタッフと一緒に後片付けをするなど、できる力を活かすよう支援も行っている。	食材業者作成の献立を使用している。行事の際はお弁当やオードブルを取り、季節感のある食事を取り入れている。誕生日には本人希望の食事、ケーキを楽しんでいる。日々のおやつ作りも利用者の楽しみにしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食量や水分量を記録し、1日の栄養や水分量が確保できるよう努めている。必要に応じて、キザキ食や介護食の提供、トロミを付けるなどの支援をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後うがいの声かけや、義歯洗浄等のケアを行っている。訪問歯科と連携し、相談・アドバイスをもらうこともある。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレでの排泄を基本とし、個々の排泄パターンを把握し、トイレ誘導等の支援を行っている。必要に応じて、リハビリパンツを使用している。	自立している利用者もいるが、個別の介護記録に全員の排泄状況を記録し、1か月分をチェック表にまとめている。2人介助も行い、可能な限り昼夜問わずトイレでの排泄を支援している。利用者の仕草等を見て適切な声かけ誘導を行うことにより失敗を減らしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々の排泄パターンを把握し、トイレに行く習慣が出来るよう支援している。水分量や食物繊維乳製品の摂取にも気をつけ予防にも取り組んでいる。腹部マッサージや服薬支援も行う。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	曜日・時間は決めず、本人の希望や体調に合わせて入浴できるよう支援している。	毎日入浴が可能で午後の時間帯を中心に一人あたり週2、3回の入浴支援を行っている。体調や希望によりシャワー浴の場合もあるが、可能な限り浴槽に入れるように支援している。入浴剤の使用や好みのシャンプー類の利用も入浴の楽しみになっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	それぞれのペースに合わせ、食後の休憩が出来るよう支援している。夜間も、安心して気持ちよく眠れるよう本人のペースに合わせて、就寝ケアを行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師より処方された薬を用法、用量を把握し、スタッフ管理のもと服薬支援を行っている。服薬後の体調変化にも注意をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居前の生活歴を活かし、編み物や読書など楽しみを持てるよう支援している。		

グループホームほほえみ

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナの影響で、外出は控えているが、車の中から花を楽しむ事や、ホーム前でバーベキューをするなど、今出来る事の支援を行っている。	事業所周辺の散歩や畑の野菜の生育状況を見ながら外気に触れる機会を設けている。車窓からの桜見学にも出かけている。感染症収束後は、以前行っていた買い物などの個別支援やお祭りなどのイベント、桜、紅葉見学、釣り堀など利用者の楽しみとなる外出を再開したいと考えている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	コロナの影響で、買い物等の外出は控えているので、お金を使う支援はできていない。本人が希望する物はスタッフが代わりに購入している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望に添って、手紙や電話の取次ぎの支援を行っている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングに行事の写真を飾り、季節を感じられる様な空間作りをしている。扇風機や加湿器を置き、温度・湿度に気をつけ居心地よく過ごせるよう工夫している。	対面式キッチンに面した居間は大きな窓から日が差し込み明るい空間になっている。感染症対策により、家具の配置を変更し思い思いの場所でゆったりと過ごすことができている。壁面には利用者の写真や季節感のある手作りの装飾などが施され、明るく家庭的な共用空間が作られている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	新聞やテレビ・雑誌等を、自由に見るなど、思い思いに過ごせる様工夫している。車椅子でも自由に動ける様家具の配置も工夫している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人やご家族様と相談し、自宅で使用されていた馴染みの家具などを配置したり、ご家族の写真を飾るなど居心地よく過ごせる様工夫している。	椅子やタンス、ベッドなどの家具類や使い慣れた鏡台などを持ち込んでいる利用者もいる。壁面には家族写真やメッセージカードが飾られている。整理整頓され清掃が行き届いた清潔感のある室内で、明るく居心地のよい居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	死角になる廊下には鏡を設置するなどし、入居者様の動きを把握できる様にしている。1人ひとりの出来る事を活かし、自立した生活が送れるよう工夫している。		



自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0193600087		
法人名	株式会社 ほほえみ		
事業所名	グループホームほほえみ 2階		
所在地	〒059-1304 苫小牧市北栄町4丁目13番3号		
自己評価作成日	令和4年6月23日	評価結果市町村受理日	令和4年8月3日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigvsoCd=0193600087-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigvsoCd=0193600087-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	令和4年7月8日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

明るく家庭的な雰囲気を大切にし、入居者様やご家族様が安心して過ごせるような家作りを目指しています。スタッフは入居者様と、共に喜んだり悲しんだりホームが一つの家となるような関係作りに努めています。また、協力医療機関や訪問看護ステーションとの連携により、日々の健康管理や看取り介護にも積極的に取り組んでいます。近隣の幼稚園や小学校との交流や地域行事への参加などを通して、地域との繋がりを大切にし、入居者様やご家族様に安心・信頼して頂ける家づくりをしていきたいと思っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほほ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほほ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほほ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほほ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほほ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほほ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほほ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほほ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほほ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほほ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほほ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	基本理念・ケア理念をホール内、玄関に掲げ日々目に付くようにし、理念を共有しながら実践に繋げている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	行事等でボランティアや近隣幼稚園との交流を図っていたが、現在はコロナの影響で控えている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近隣小学校での、認知症サポーター養成講座に関わっていたが、コロナの影響で控えている。今年は10月以降に予定をしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナで外部からの立ち入りを禁止していたので、報告や情報交換が、不十分であると思う。今後は、話し合いを行いサービス向上に活かしていきたい。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	必要に応じて、情報提供・相談等を行いながら、協力関係を築いている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日々の介護を通し、申し送り時やミーティングの場などで意見交換や話し合いを重ね、身体拘束について正しく理解できる様取り組んでいる。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	スタッフ間の情報を共有しながら、1人ひとりのケアを確認し、虐待が見過ごされることがない様注意を払っている。		

グループホームほほえみ

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性に関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会等の参加機会も減り、学ぶ機会も持っていない。今後学ぶ機会を設けて活用できるようにしていきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時、十分な説明を行い入居者様やご家族様の、疑問や不安な点を解決し、理解や納得を得ている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者様やご家族様とのコミュニケーションを重視し、意見や要望を出しやすい環境作りに努めている。出された意見・要望は、ホーム内で共有し運営に反映指せるよう取り組んでいる。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年1回個別面談の場を設け、スタッフの意見・提案を聞いている。それ以外でも、随時意見交換を行い、十分な話し合いの場を設け、運営に反映させている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の努力や実績、勤務状況を把握し待遇改善や職場環境の整備に努めている。向上心がもてる様、資格取得の為の休暇や手当等の制度を設けている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	コロナの為、外部研修の参加はなかなかできないが、ミーティングや申し送り時の時間を活用し、職員を育てる取組みをしている。資格取得の為の研修については参加しやすい環境作りを行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との研修機会もなくなっているが、管理者を通し情報交換をしながら、サービスの質の向上に繋がる様取組みをしている。		

グループホームほほえみ

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階)		外部評価	
			実施状況		実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に、本人・ご家族様と面談を行い、現状困っている事や不安に思う事に耳を傾け、本人が安心できる関係作りに努めている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様の困っている事や不安に思っている事に、耳を傾け、情報の共有しながら不安の解消、要望に近づく様な関係作りに努めている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居時、本人・ご家族の要望を聞き、短期間の計画書を作成し、必要なサービスの見極めに努めている。			
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	介護する側もされる側も、同じ立場という思いで、一緒に生活をしている家族という関係を築いている。			
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居者様の状態を把握し、ご家族様と情報交換や情報の共有をすることで、共に支えるという関係を築いている。			
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人からの、電話や手紙の取次ぎはしているが、面会はコロナの関係で控えている。			
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様の性格や特徴を把握し、入居者様同士の関係を見極めながら、個々が孤立しないよう支援に努めている。			



グループホームほほえみ

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も、数名のご家族様との関係が続いている。また、相談ケースが持ち込まれる事もあり、必要に応じて相談や支援に努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居様希望や意向を把握できる様、コミュニケーションを大切に、スタッフ間の情報共有に努めている。困難な場合は、本人本位に検討するよう努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に、ご家族様や担当ケアマネから情報提供をしてもらい、まとめた情報をスタッフ間で共有し、サービス利用の経過等の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護記録やコミュニケーションを通し、個々の生活リズムや身体状態の把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人やご家族様の意向を聞き、モニタリングを行い、それぞれの意見を反映しながら、現状に沿った介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を個別に記録し、情報の共有をし、意見を出し合いながら介護計画の見直しをしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ホ人やご家族様の、その時々ニーズに合わせた柔軟な対応ができるよう、十分な話し合いを行いサービスに取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナの為、地域行事も減り参加できていない		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の往診や必要に応じて外来受診をおこなっている。緊急時の連絡体制を整え、適切な医療が受けられるよう支援している。		

グループホームほほえみ

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階)		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションとの契約により、24時間連絡可能な体制となっている。また、週1回の定期訪問で情報交換・情報の共有をし、適切な看護が受けられる様、支援している。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入居者様の入院時には、安心して治療が受けられる様また、早期に退院が出来る様、病院関係者と情報交換情報の共有、相談等しやすい関係作りを行っている。			
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に、看取り介護についての説明を行っている。実際に看取り介護の状態になった時は改めて、同意書を交わし、かかりつけ医や訪問看護ステーション、ご家族様と連携しスタッフ全員で看取り介護に取り組んでいる。			
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生に備え、日々話し合い、確認を行っている。スタッフ全員が、対応できるよう実践力が身につくよう努めている。			
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回昼間・夜間の避難訓練を行い、避難方法等の確認をおこなっている。災害時に備えて、備蓄品の保管管理をしている。災害時の訓練は今後の課題である。			
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>						
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々に合わせた声かけや、声の大きさ・タイミング等に注意し、丁寧な対応を心がけている。			
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の日々の様子を注意深く観察し、本人が思いや希望を表せ、自己決定できるよう各々に合わせた働きかけをしている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の希望に添った支援が出来るよう、1人ひとりのペースを大切にしている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に訪問理容を利用し、本人の希望に合わせたカットやパーマをオーダーしている。日に1回は鏡の前に座る機会を設けるなど、その人らしいおしゃれが出来る様支援している。			

グループホームほほえみ

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の好みに合わせたメニューの日を設けたり、出前などで、食事が楽しみになる様支援している。また、料理の下ごしらえや後片付けを一緒にしている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量を記録し、1日の栄養や水分量が確保できるよう努めている。必要に応じて、キザキ食や介護食の提供、トロミを付けるなどの支援をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後うがいの声かけや、義歯洗浄又は口腔ケアスポンジ等で口腔内の清潔が保てるよう努めている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレでの排泄を基本とし、個々の排泄パターンを把握し、トイレ誘導等の支援を行っている。必要に応じて、リハビリパンツを使用している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々の排泄パターンを把握し、トイレに行く習慣が出来るよう支援している。水分量や食物繊維乳製品の摂取にも気をつけ予防にも取り組んでいる。腹部マッサージや服薬支援も行う。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	曜日・時間は決めず、本人の希望や体調に合わせて支援を行っている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	1人ひとりの生活パターンや状況に合わせて、夜間安心して眠れる様、就寝ケアの支援をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師より処方された薬を用法、用量を把握し、スタッフ管理のもと服薬支援を行っている。服薬後の体調変化にも注意をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	1人ひとりの生活歴や、力を活かし掃除・食事の下ごしらえ・後片付け等しながら気分転換になる様支援している。また、嗜好品の購入など、楽しみにつながる様支援している。		

グループホームほほえみ

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナの影響で、外出は控えているが、車の中から花を見るなどの支援をしている。今後は少しずつ、外に出る機械を増やしていきたい。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一緒に買い物に出るなどの支援は出来ていないが、ほしい物など、スタッフと一緒に考えたりしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望に添って、手紙や電話の取次ぎの支援を行っている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングに行事の写真や花を飾り、季節を感じられる様な空間作りをしている。扇風機や加湿器を置き、温度・湿度に気をつけ居心地よく過ごせるよう工夫している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	新聞やテレビ・雑誌等を、自由に見るなど、思い思いに過ごせる様工夫している。車椅子でも自由に動ける様家具の配置も工夫している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人やご家族様と相談し、自宅で使用されていた馴染みの家具などを配置したり、ご家族の写真を飾るなど居心地よく過ごせる様工夫している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	死角になる廊下には鏡を設置するなどし、入居者様の動きを把握できる様にしている。1人ひとりの出来る事を活かし、自立した生活が送れるよう工夫している。		



## 目標達成計画

事業所名 グループホームほほえみ

作成日：令和 4年 7月 29日

市町村受理日：令和 4年 8月 3日

## 【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	4	テーマを設定したり役立つ情報資料などを議事録に添付し、参加できない家族や構成メンバーからの意見や質問なども会議に活かすよう期待したい。	コロナの状況を見ながら、会議の開催を再開していきたい。ご家族様の意見や質問を引き出し、会議に活かしていく。	ご家族様の、意見や質問を引き出せるよう、ホーム側から具体的な話題で、声かけを行っていく。	1年～
2	35	火災以外の災害時の対応について話し合った記録をマニュアルなどに綴り、定期的に確認するよう期待したい。また、感染症の収束状況を見ながら職員の救命講習の受講を進めるよう期待したい。	火災以外の災害時の対応について、年1回以上、職員間で確認を行う。職員が、救命講習を受講できる様取り組んでいく。	火災以外の災害時の対応について、ミーティング時に職員間で定期的に、確認を行う。コロナの状況を見ながら、救命講習の受講を計画立てて行う。	1年～
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。